

令和6年度
小・中学校GIGAスクール教科等研究集会資料

小 学 校
音 楽

徳島県教育委員会

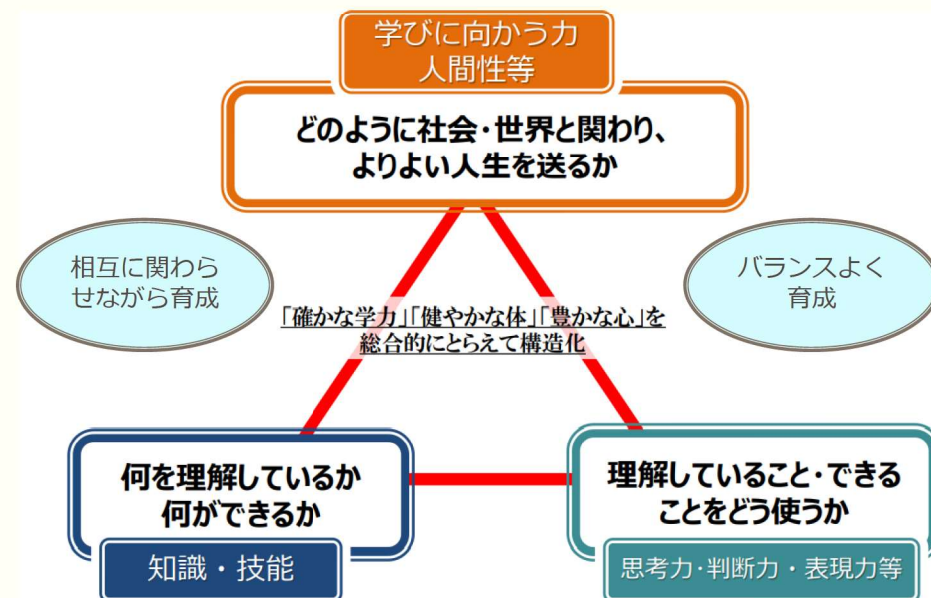
音楽科の目標

解説書p.9

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。
(学びに向かう力、人間性等)

育成すべき資質・能力の三つの柱



「参考資料」より引用

音楽科の目標

解説書p.10-11

音楽的な見方・考え方

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること。

音楽的な見方・考え方を働かせて学習することによって、児童の発達の段階に応じた、「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が実現していく。このことによって、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力が育成されるのである。

音楽的な見方・考え方は、見方・考え方を働かせた音楽科の学習を積み重ねることによって広がったり深まったりするなどし、その後の人生においても働くものとなる。

題材構成の考え方－資質・能力の関連付け

解説書p.117-118

指導計画の作成と内容の取扱い

- (2) 第2の各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)の指導については、ア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」の(1)の指導については、ア及びイの各事項を適切に関連させて指導すること。

授業のまとまりを見通す中で、各事項を全て扱う

題材構成の考え方

資質・能力	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識	技能		
教科の目標	(1)		(2)	(3)
学年の目標	(1)		(2)	(3)
表現	イ	ウ	ア	*
鑑賞	イ	－	ア	
〔共通事項〕	イ	－	ア	

題材構成の考え方－〔共通事項〕と各領域や分野の事項

解説書p.117-118

指導計画の作成と内容の取扱い

- (3) 第2の各学年の内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫すること。

〔共通事項〕アは、思考力、判断力、表現力等に関する内容を示しており、〔共通事項〕アと各領域や分野の事項アは、一体的に捉えるべき内容である。

参考資料p.30

題材構成の考え方

解説書p.119

指導計画の作成と内容の取扱い

- (4) 第2の各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)並びに「B鑑賞」の(1)の指導については、適宜、〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図るようにすること。

児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素の想定

解説書p.110

〔共通事項〕

ア **音楽を形づくっている要素**を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、**美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。** 思考力、判断力、表現力等

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。 知識

題材構成の考え方

音楽づくりの内容のまとめり〔第5学年及び第6学年〕

	(ア)	(イ)
ア 思考力、 判断力、 表現力等	即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること	音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとめりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと
イ 知識	いろいろな音の響きやそれらの組み合わせの特徴	音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
ウ 技能	設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能	音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能
	音遊びや即興的に表現する	音を音楽へと構成する

「初等教育資料令和4年11月号」より作成

児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素の想定

解説書p.135

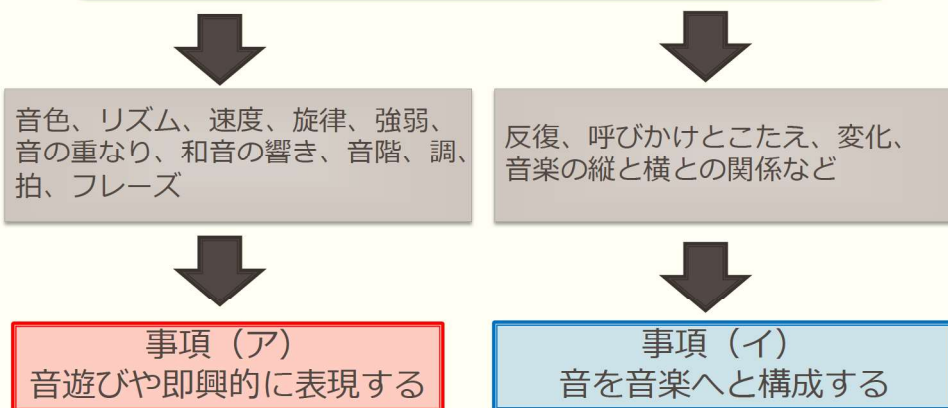
音楽を形づくっている要素

- ア 音楽を特徴付けている要素
音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズなど
- イ 音楽の仕組み
反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など

題材構成の考え方

音楽づくりにおける扱う事項の選択

児童が音楽づくりの活動の中で、音楽を形づくっている要素の何を思考・判断のよりどころとするのか

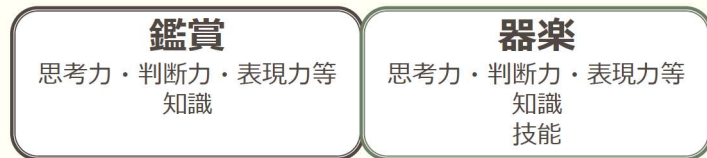


「初等教育資料令和4年11月号」より作成

題材構成の考え方

鑑賞と器楽の題材構成の考え方（例）

a 鑑賞と器楽の学習で構成した題材



b 鑑賞の学習のみで構成した題材



器楽の学習に位置付けないので器楽の評価は不要

「初等教育資料令和3年7月号」より引用

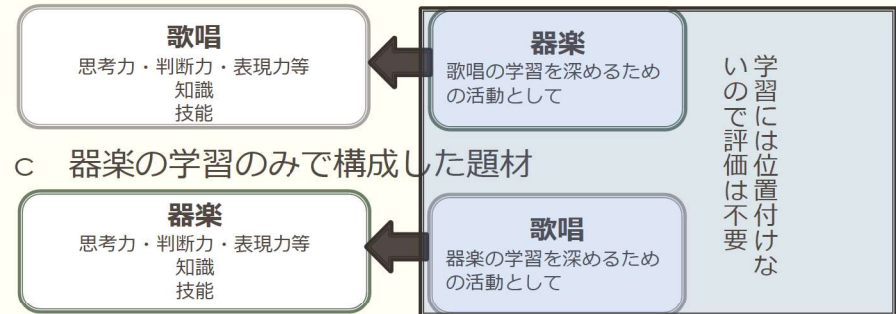
題材構成の考え方

合唱奏の題材構成の考え方（例）

a 歌唱と器楽の学習で構成した題材



b 歌唱の学習のみで構成した題材



c 器楽の学習のみで構成した題材

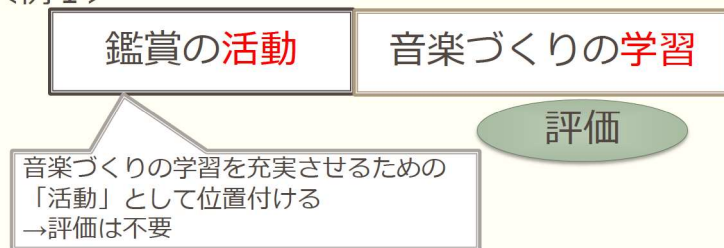


「初等教育資料令和3年7月号」より引用

題材構成の考え方

複数の領域や分野の関連を図った題材構想について

<例1>

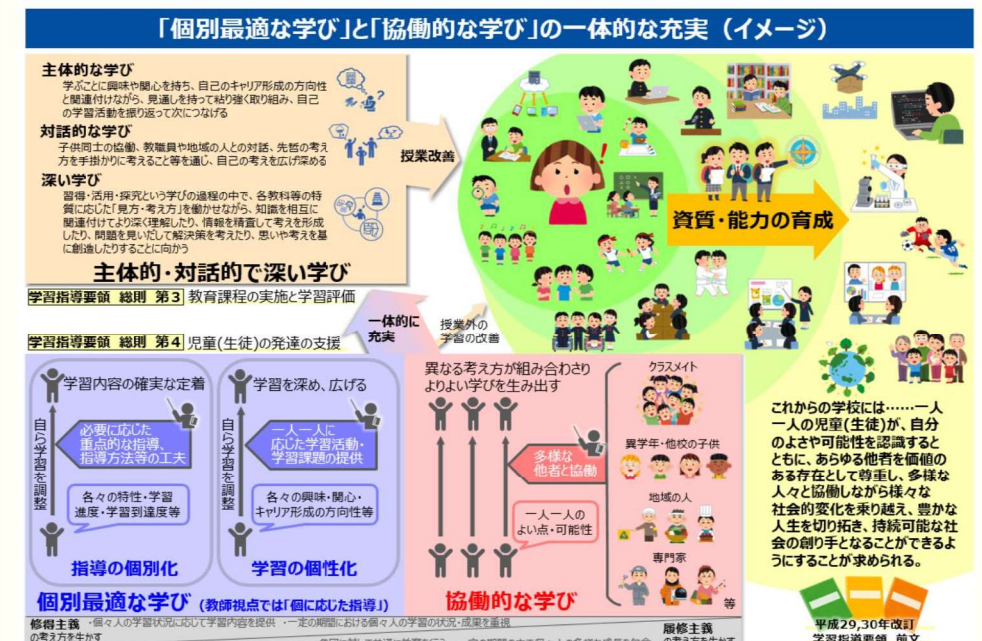


<例2>



「初等教育資料令和3年7月号」より作成

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善



主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、3つの視点に立った授業改善

①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取組、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。

②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考え方を広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

③習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編 p.77

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善についての留意点

各教科等の特質に応じた学習活動の改善

すべての教科等において、これまでの充実が図られてきた学習活動の質を高めていく

単元や題材のまとまりを見通した学びの実現

単元や題材などの内容や時間のまとまりをどのように構成するかというデザインを考える

基礎的・基本的な知識・技能の習得

資質・能力を育成するための多様な学習活動を組み合わせて授業を組み立てる

令和6年度小学校及び中学校各教科等教育課程研究協議会（中・音）より作成

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

主体的・対話的で深い学び

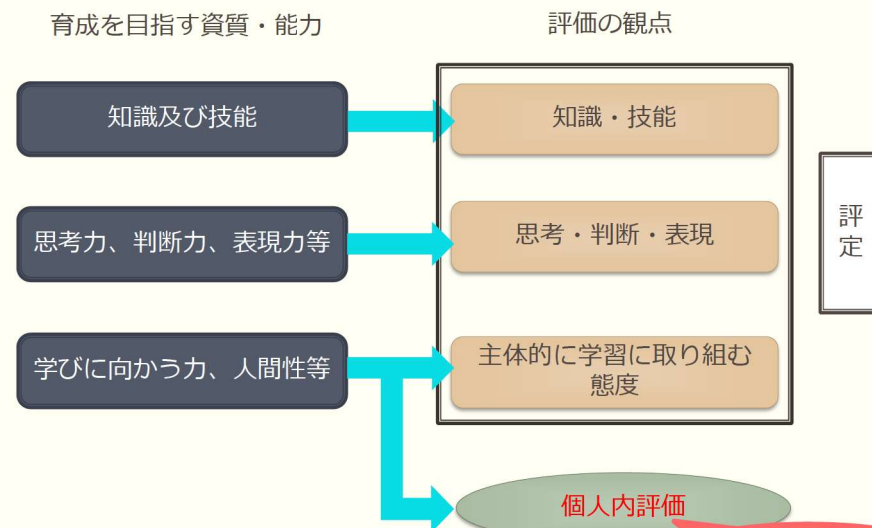
- ・特定の学習方法や指導方法を意味するものではない。
- ・これまでの実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はない。

教師一人一人が、子供たちの発達の段階や発達の特性、子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと教科等の学習内容、単元や題材等の構成や学習の場面等に応じた方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要。

令和6年度小学校及び中学校各教科等教育課程研究協議会（中・音）より作成

学習評価の課題とその改善に向けて

指導と評価の一体化



令和6年度小学校及び中学校各教科等教育課程研究協議会（中・音）より作成

音楽科では特に大切にしたい

学習評価の課題とその改善に向けて

① 学習評価を計画する際の注意点

- ・ 事項の内容や「評価の観点の趣旨」の確かな理解
- ・ 適切な評価方法の選択
- ・ 「思考・判断・表現」の評価規準の適切な設定

学習評価の課題とその改善に向けて

「参考資料」の【事例】に見る知識・技能の評価方法

事例	学年	領域・分野	評価方法
事例 1	4 年	歌唱・器楽	記述、発言、聴取
事例 2	1 年	音楽づくり・鑑賞	観察、発言、記述 観察、発言、聴取
事例 3	5 年	音楽づくり	発言、記述 聴取、記述
事例 4	3 年	鑑賞	観察、発言、記述

学習評価の課題とその改善に向けて

【評価の観点及びその趣旨】

参考資料p.28

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 ・ 表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

学習評価の課題とその改善に向けて

参考資料p.56

児童の思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」、「フレーズ」、「反復」、「変化」)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱)	① 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)	① 曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱、器楽)
② 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。(歌唱、器楽)	② 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)	
③ リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽)		

学習評価の課題とその改善に向けて

- ② 学習改善、指導改善に生かすために
 - ・ 「努力を要する」状況の改善に向けて
 - ・ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価と学習改善

学習評価の課題とその改善に向けて

主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」に係る各教科等の評価の観点の趣旨に照らし、

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた**粘り強い取組**を行おうとする側面と、
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、**自らの学習を調整しようとする側面**

という二つの側面を評価することが求められる。

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」より引用

学習評価の課題とその改善に向けて

「自らの学習を調整しようとする」とは・・・

自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという**意思的な側面**

各教科等の特質に応じて、児童生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要がある。

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」より引用

学習評価の課題とその改善に向けて

参考資料p.83-84

「努力を要する」状況（C）と判断されそうな児童への働きかけ例

「参考資料」【事例4】のポイント

- ・ めあての確認
- ・ 前時までの学習を振り返らせ、活用できるよう促す。
- ・ 「十分満足できる」状況（A）と判断される児童の学習状況をモデルとして紹介。
- ・ 他の児童との協働的な学びから、自らの学習の調整に向かうことができるよう働きかける。

学習評価の課題とその改善に向けて

指導の改善の具体

参考資料p.83

- ・ 学習の調整に向けた取組のプロセスには、**児童一人一人の個性があることから、特定の型に沿った学習の進め方を一律に指導することのないよう配慮が必要**である。
- ・ 一人一人の子供が、**自ら様々に学び方を工夫していく中で、自分に合った学習の調整の仕方を見いだせるよう、教師は粘り強く見守っていくこと**も大切。

学習評価の課題とその改善に向けて

指導の改善の具体

特に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たっては、児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり、自らの考えを記述したり話し合ったりする場面、他者との協働を通じて自らの考えを相対比する場面を単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりするなど、**「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図る中で、適切に評価できるようにしていくことが重要である。**

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会
「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」より引用

学習評価の課題とその改善に向けて

指導の改善の具体

解説書p.116

例えば、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり**学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められる。**

効果的なICT活用の実現に向けて

音楽科におけるICT活用の利点

- 音楽を音声と画像の両方で確認することなどが可能であり、聴覚だけでなく視覚などを働かせながら、音楽表現を工夫したり、音楽を聴き深めたりしていくことができる。
- 自分たちの演奏を録音や録画で残すなど学習履歴を蓄積することができ、学習の振り返りや成果の確認に生かすことができる。

「GIGAスクール構想のもとでの小学校音楽の指導について」より引用

効果的なICT活用の実現に向けて

音楽科におけるICT活用の留意点

- ◆ 児童の感覚を十分に働かせたり、思考を活性化したり、工夫を促進したりすることができるよう、音楽科の学習の特質に合わせた活用を行っていくよう配慮する。
- ◆ ICT機器の操作そのものが目的化しないように留意し、授業のねらいに応じて、ICTの多彩な機能の中から厳選して用いるようにするとともに、活用場面を精選する。
- ◆ 児童が自分たちの演奏のよさや課題に気付くようにしたり、必要に応じて児童自らICT機器を活用できるようにしたりするなど、主体的に学習に取り組むことができるよう指導する。

学習指導要領における記述

第3 指導計画の作成と内容の取り扱い

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

ウ 児童が様々な感覚を働かせて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。

「GIGAスクール構想のもとでの小学校音楽の指導について」より引用

効果的なICT活用の実現に向けて

音楽科におけるICT活用の例

【鑑賞】

- ・ クラウドに保存された演奏の音源や画像を、自分が視聴したい部分を取り出して繰り返し聴きながら、音楽を形づくっている要素やその働きの感受を深める。
- ・ 作品の背景となる文化・歴史、他の芸術との関わりについて考える際に必要な情報をインターネットで検索し、作品に対する理解を深める。
- ・ 同じ作品を異なる楽器や異なる演奏家による演奏で聴き比べ、音楽表現の共通性や固有性について考えながら、よさや美しさを味わって聴く活動につなげる。

「GIGAスクール構想のもとでの小学校音楽の指導について」より引用

効果的なICT活用の実現に向けて

音楽科におけるICT活用の例

【表現】

- ・ 自分の歌唱や演奏を録音・録画し、それを再生しながら、表したい音楽表現の見通しをもったり、技能の習得過程を確認したりする。
- ・ 音を可視化するソフトを利用して、音高や音量、アーティキュレーションなどを確認し、表したい音楽表現を創意工夫するための修正の方向性をもつ。
- ・ インターネットを活用して、曲の背景などについての知識を得ながら、歌唱・器楽で表現するための表現意図を深める。
- ・ 音楽制作ソフトなどを活用して、音の連ね方や重ね方を即興的に試しながら音楽をつくったり、音色を様々に変化させながら、表したい音楽のイメージを豊かにしたりする。
- ・ つくった音楽を再生して音で確認しながら、創作表現を工夫したり、ペアやグループで感想やアドバイスを伝え合いながら、つくった作品を修正したり、さらに工夫を重ねたりする。

「GIGAスクール構想のもとでの小学校音楽の指導について」より引用